

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大門小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項に、課題が見られたので、誤答が多くなりそうな例を確認していく。算数では、アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しいと計算方法や計算順序を確認する。R7年度の全国学力・学習調査の等で引き続き検証していきたい。
思考・判断・表現	授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付ける。課題を全体でしっかり共有し、解決のために必要な資料や文など選択することに自力解決を促しながら、個別にも支援していく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>国語では、漢字や文法問題に課題が見られる。算数では、四則計算で簡単な計算ミス等の課題が見られる。</p> <p><指導上の課題>理解しているかの確認不足や反復練習の時間が足りない。</p>	⇒ 授業の初めに既習事項を確認したり授業後、学んだことを全員で共有したりする。(毎時間)ドリルパーク等を活用し反復習熟に取り組む。その際学習履歴等を確認し個別で学習計画を立てる時間を設定する。(各単元)
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>自分の考えを明確にして発表することを苦手とする児童が多い。</p> <p><指導上の課題>発表児童が決まってしまうことがある。</p>	⇒ ペアやグループでの発表する機会を設けて児童の苦手意識をなくしていく。配慮が必要な児童に対して計画的に支援する。(各単元計画的に行う)【令和6年度さいたま市学習状況調査(学級との友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか)の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	授業の初めに既習事項を確認したり授業後、学んだことを全員で共有したりすることができた。R6さいたま市学習状況調査の国語、算数において、同一集団経年比較において、複数学年でR5年を上回ることができた。
思考・判断・表現	B	ペアやグループでの発表する機会を更に設けて児童の苦手意識を少しずつなくしていくことができた。配慮が必要な児童に対して計画的に支援することができた。R6年度の無回答率がどの学年も減り、また、0%の学年もあった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の漢字を使って言葉を書き直す問題に課題が見られた。配当学年でない漢字を間違える児童が多かった。既習事項の定着の課題があると考えられるので、既習した漢字は、必ず使うように指導していく必要がある。算数では、速さの意味について問う問題に課題が見られた。時間の単位の換算について確実に理解させる必要がある。ただし、ここ数年の継続した取組により、成果を確実に出すことが結果から分かったので今後も取組を続けていく。	
思考・判断・表現	国語の人物像を想像したり表現の効果を考えたりする問題に課題が見られた。物語から言葉や文を取り上げるのが苦手になっている児童が少なからずいると思われる。算数の速さが一定であることを基に道のりと時間の関係についての問題に課題が見られた。道のり、時間、速さの関係を繰り返し指導していく必要がある。今回の結果から、一定水準以上の結果が得られている成果が確認できたので、今後も取組を継続していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「当該学年前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」の設問に課題が見られた学年が複数あった。漢字の意味を考えて使うことができていないと考えられる。算数では、「分数、小数、整数の混合した計算をすることができる」の設問に課題が見られた。分数、小数、整数の計算は、理解しているので、計算する順番を間違えたと考えられる。	
思考・判断・表現	国語では、話すこと、聞くことについて、複数の学年で市の平均を大きく上回ることができた。授業の中で発表する機会を多くしたからだと考えられる。社会では「地域の発展に尽くした先人の働きを読み取ることができる」の設問に課題が見られた。設問に対してどの資料を使うか理解できなかったと考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	授業の初めに既習事項を確認したり授業後、学んだことを全員で共有したりすることができた。(毎時間)ドリルパーク等を活用し反復習熟に取り組む。その際学習履歴等を確認し個別で学習計画を立てる時間を設定する流れができた。(各単元)	変更なし
思考・判断・表現	B	ペアやグループでの発表する機会を設けて児童の苦手意識を少しずつなくしていくことができた。配慮が必要な児童に対して計画的に支援することができた。(各単元で計画的に行う)	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)